

本光寺 飛龍 仏教壮年会報

2008(平成 20)年

2 月発行 No.49

● 年末年始の大雪はいかがでしたか。融雪の水が出ないため、大晦日は一日雪片付けでした。元旦は朝7時よりスカウトが集まったので、お参り前に雪を片付けてくれました。おかげで10時からの元旦会は落ち着いておこなうことができました。元旦会はお勤めのあと、子供たちが大学の茶道部に入っておりましたので、お茶を点てていつもとちょっと違う時間を過ごしていただきました。見頃西光寺から大晦日の除夜の鐘突きと年越し蕎麦のご招待をいただいておりますが、大荒れのためうかがうのを断念いたしました。見頃では大雪の中、予定通り行い大好評だったそうです。



● 3 月中旬には例年のように、雪囲いをはずします。昨年は大雪ではずすどころではありませんでしたので、中止いたしましたが、今年はいかがなりますやら。日程を例会で決め改めて連絡いたしますので、ご協力をお願いいたします。また、4 月 6 日は春の法要です。こちらもお手伝いをお願いいたします。予定に組み入れておいてください。



● 融雪の水が出なくなったので、井戸を点検してもらったところ、パイプが腐食、水中ポンプが目詰まり、井戸が泥で埋まりつつありました。そこで、井戸の掃除をし、ポンプとパイプを交換いたしました。その後はきれいな水が上がってきて、順調に雪を溶かしてくれています。

例会のお知らせ

2 月 27 日(水)

午後 7 時より

会費:2,000 円

会場:門徒会館

出欠の連絡ははがきで
はがきを同封していない方は
会長まで電話ください

会長 国分正剛 27-8066

年会費:3,000 円

まだの方お願いいたします

● 昨年より 聖典輪読会を毎月第 3 水曜日におこなっています。昨年は夜 7 時から 9 時まででしたが、参加者は国分さんのみでした。昼間のほうが参加しやすいという声があったので、今年から午後 2 時からにしましたが、相変わらず参加者がありません。楽しく勉強したいと思っております、ぜひご参加ください。

聖典輪読会

日程:毎月第 3 水曜日

時間:午後 2 時より 2 時間程度

テキスト:仏説無量寿經

参加費:200 円

ご門主法話

世のなか安穩(あんのん)なれ 仏法ひろまれ

「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」は、親鸞聖人がお手紙に記されたお言葉です。この度の大遠忌のスローガンでは、前半の「世のなか安穩なれ」だけが



採用されていますが、仏教徒としては、後半も大事であることは、申すまでもありません。よく、「平和」と叫んでいるだけでは、平和な世の中は実現しないと批判されます。確かに、その通りです。平和のためと称して、戦争を仕掛ける場合もありますから、現実には厳しいものです。しかし、仏法にもとづいて、安穩を目指すということになれば、もう少し、効果が期待できるのではないのでしょうか。

まず、私のことが問題です。「老病死」が切実であったり、「貪瞋痴(とんじんち)」が盛んな時、世の中のことまで考える余裕はないからです。しかし、そのような私であると見抜いてくださった阿弥陀如来のお救いです。お慈悲の中に、そのまま受け入れるべきことと、改善できることを区別し、乗り越えていきたいものです。

次に、私だけの安穩にとどまっては、仏教の掲げる理想が半分かすんでしまいます。悩んでいるのは、私だけではない、周囲の人びとも悩みをかかえている、はるか遠くには、もっと深刻な社会に生きている人びとがあることに思いが広がる時、私にできることは何かを考えることができます。弱い人びとを踏みにして会社の利益を追求する世の中の仕組み、争いの底に憎しみや怨みの感情が広がっていることに気付かず、力でねじふせようとする政治など、一人の力ではいかんともし難いと思いがちですが、「ともにこれ凡夫(ただひと)ならくのみ」(『憲法十七条』)、「怨(うら)みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息(や)むことがない」(『法句経』)などの教えによって、仏教徒として、投票権を行使することをはじめ、世の中を動かせる可能性はたくさんあるのです。

(大乘 2008 年 2 月号より)



「ムダ」でもいいじゃない

エッセイスト高橋章子

高校生の娘さんの携帯電話のメールを、チェックしてみたのだそう。様子がおかしかったから、である。

「なんですぐに返事をくれなかったの？ 今後はぜったいに誘わない。オマエはもう仲間じゃナイ」

そんなイカりの文章が踊っていてビックリしたと、友人は嘆いた。数日後の遊びのお誘いメールであっても、学校で会う次の日まで返事を延ばすというわけにはいかないようである。クラス全員で娘さんをシカトすることに決まり、ずいぶんイジメられたらしい。これまた携帯やパソコンのメールでの、あっという間のやり取りであった、と。

食事中であれ、会話中であれ、携帯をはなさずソッコーの通信・通話合戦に明けくれる子どもたち。いや子どもだけではない、大人も同じだ。確かに、ソッコーのやり取りは便利ではある。しかし、目の前にいる人のお喋りを中断してまでも、「今」やり取りしないと不安になったりイラついたりするというのは、いかがなものか。

あたくしなぞは、激しくアナログしているため、たいがい場合はエンピツでの走り書き FAX 等にて、のんびりとメッセージ交換を楽しむ。あるいは切手を貼っての手紙では大げさな時には、書いた手紙を自転車で届けるのであるが、季節の風が大変に気持ち良く、お気に入り。

そうして、たとえば忘れたところに返事が来て、私はまた暇のある時に手紙を書く。この、のんびりと「時」が流れるその間、私は、その友人のことに思いをはせている。「ソッコー」では味わえない、人間としての醍醐味ここにあり。

世の中のスピードは加速するばかりで、のんびりとした時間は「ムダ」と呼ばれて嫌われる。「ゆったりと待つ時間」にアセリさえ覚える人々が増え、ソッコーでのコミュニケーションが好まれる何を死に急いでいるのか、と思う。

「ムダ」と呼ばれる、のんびりとした時間、待つことを楽しむ心。これが大切なのだ。人が人を思いやる温かな心は、ココで育つ。「ムダ」という名の貴重なベッドの中で、人間の豊かさというものが時間をかけてジックリと育まれていくのだ。

手紙のやり取りの向こうに見えてくる互いの血のぬくもり。豊かさの育ちぶりを「待つ」のも、なかなかよいものです。

(御堂さん 2008 年 2 月号より)